



**Piccorno**

Sato Yukari : 佐藤 由加里

**Flute**

Sato Tsukasa : 佐藤 司

Uotani Yoko : 魚谷 陽子

Nobesawa Yuka : 延澤 優子

**Oboe**

Ueshima Yuka : 上嶋 悠子

Nakamura Hiroko : 中村 紘子

**E♭ Clarinet**

Nagao Kyoko : 長尾 恭子

**B♭ Clarinet**

Hatazawa Aitsuko : 畑澤 淳子

Hatsuoka Yuki : 初岡 ゆき

Ishida Keiko : 石田 契子

Ohe Nana : 大江 奈々

Fukuda Aya : 福田 彩

Sasaki Hirayuki : 佐々木 博幸

Tsuzi Miho : 辻 美保

Ueda Hironori : 植田 洋美

Takemura Akie : 竹村 明恵

**Alto Clarinet**

Onishi Harumi : 大西 晴己

**Bassoon**

Kayahara Mikako : 萱原 美華子

\*Komada Mutsuko : 菟田 睦子

**Alto Saxophone**

Ogawa Yoko : 小川 陽子

Ito Kahei : 伊藤 耕平

**Tenor Saxophone**

Hatsuoka Kazuki : 初岡 和樹

**Baritone Saxophone**

Okuda Hironori : 奥田 ひろみ

**Horn**

小川 貴子 : Ogawa Takako

日置 澄人 : Hioki Sumihito

佐伯 直人 : Saeki Naoto

久野 耕三 : Kuno Koza

**Trumpet**

魚谷 昌克 : Uotani Masakatsu

大西 伸幸 : Onishi Nobuyuki

国元 昌広 : Kunimoto Masahiro

表 恭子 : Omote Kyoko

吉川 茂宏 : Yoshikawa Shigehiro

篠木 章江 : Shinoki Akie

**Trombone**

田口 秀雄 : Taguchi Hideo

小島 正浩 : Kojima Masahiro

萱原 淳嘉 : Kayahara Aitsuyoshi

上田 純子 : Ueda Junko

**Euphonium**

大西 善郎 : Onishi Yoshio

中村 雅美 : Nakamura Masami

**Bass**

吉村 大介 : Yoshimura Daisuke

平野 幸子 : Hirano Sachiko

**Contrabass**

井村 誠貴 : Imura Masaki\*

佐藤 良一 : Sato Ryoichi\*

**Percussion**

河津 雅之 : Kawatsu Masayuki

平井 晶 : Hirai Aki

下村 智子 : Shimamura Tomoko

板垣 麻子 : Itagaki Asako

小椋由希子 : Ogura Yukiko

廣田 順子 : Hirota Junko

**Piano**

松本 清香 : Matsumoto Kiyoka

**Stage Manager**

河村 穰香 : Kawamura Yutaka

田中 真二 : Tanaka Shinji



やまと郡山城ホール・インヴィテーション・シリーズ



# 2001年 夏の演奏会

当団では、現在以下のパートの団員を募集しております。

よろしければ一度ご検討ください。

Hr 1名・Bass.cl 1名・StBass 1名

<http://www.interq.or.jp/classic/a-winds/home.htm>

2001.7.1 SUN. Start 14:00

やまと郡山城ホール大ホール

\* = エキストラ





指揮：佐藤 司  
フィリップ・スパーク  
**ハノーヴァーの祭典**

- ベルト・アッペルモント  
**ノアの箱舟**  
1) お告げ  
2) 動物たちの行列  
3) 嵐  
4) 希望の歌

<休憩>

指揮：井村 誠貴  
ホマー・ラ・ガッシー  
**海の肖像**

- フランコ・チェザリーニ  
**アルプスの詩**  
1) 霧  
2) 哀感  
3) 突然の光明  
4) 精神錬成  
5) 高原の牧場  
6) 吹雪  
7) 神の国

Conductor : Salo Tsukasa  
Philip Sparke

**Hanover Festival**

- Bert Appermont  
**Noah's Ark**  
1) The Message  
2) Parade of the Animals  
3) The Storm  
4) Song of Hope

<Intermission>

Conductor : Imura Masaki  
Homer La Gassey

**Sea Portrait -A Tone Painting-**

- Franco Cesarini  
**Poema Alpestre**  
1) Nebbia  
2) Della Malinconia  
3) Luce Improvisa  
4) Operationes Spirituales  
5) Alpeggio  
6) tormenta  
7) Dello Stato Divino



**Regards & Profile**

**ご挨拶**

団長：魚谷 昌克

本日はA-Winds 6 2001年夏の演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。音楽を通じて皆様方とこうしてお逢いする機会を持つ事ができましたことにA-Winds一同、心より感謝しております。

県内にはアマチュア吹奏楽団が数多くあり、個々の活動は中学校や高校をも凌ぐほど熱心で盛んであります。そのような文化に恵まれた環境に生まれ、我々A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラは、1999年10月に新しい吹奏楽団として誕生しました。

発足と同時に活動を始めて以来、1999年12月の「デビュー演奏会」を始め、2年足らずの間に5回の演奏会を開催し、おかげ様をもちまして団員も50名に成長することができました。これも、皆様方のご指導、ご支援あってのことと厚く御礼申し上げます。

また、遅くなりましたが、「やまと郡山城ホール」開館、誠におめでとうございませう。この日が来るのを待ち焦がれていた者の一人として、まだまだ高き香りのするこのホールで演奏できる機会を頂き誠に光栄に存じますとともに、市当局並びに関係各位の方々に深く感謝申し上げます。我々の音楽活動が「こころ豊かな文化の香り高き町」のほんの少しでも一翼を担わせて頂ければ幸いです。

さて、我々の団の正式名称は「A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ」です。この「アマチュア」という表現がとても気に入っています。がむしゃらに、ひたむきに互いに仲間を信頼しあい、何事にも臆せずただひたすらチャレンジし続けることが、とても自分にあってるし、それにこれはアマチュアだから出来ることだと思うからです。

また、既にご存知の方もおられるかと思いますが、A-Winds は最小人数の吹奏楽=ウィンドアンサンブルを指向しております。演奏面は勿論のこと、運営面も含む活動全般において、団員一人ひとりが常に「主人公」であり、自分の代役は自分しかできないという意識のもと「責任」を感じ、「やりがい」に酔いしれて未来への熱き想いを抱きそれを叶えるべく、いきいきとした吹奏楽団を目指し日々活動に取り組んでおります。これから、団員一同、更に心をつとに、リラックスして且つ真剣に今出来る精一杯の音楽活動に取り組んでいく想いに胸を膨らませながら、団員を代表しまして、今の心境を一句詠ませていただきます。

アマチュアは一途な心の 成せる技

今後とも、暖かいご指導、ご支援の程、宜しく願いいたします。

**プロフィール**

客演指揮者：井村 誠貴

1994年大阪音楽大学コントラバス科卒業。在学中よりオペラ指揮者として各地で研鑽を積み、これまでに菊池彦典氏をはじめ、岩城宏之、星出豊、秋山和慶、手塚幸紀、大町陽一郎、広上淳一、牧村邦彦、飯森範親、阪哲郎らの日本を代表する指揮者のもとで、アシスタント・コンダクターとして多くの公演に携わり高い評価を得ている。主にザ・カレッジオペラハウス、関西二期会、喜歌劇楽友協会などの主要団体のほか、地方オペラなどにも積極的に取り組んでおり、いずれも重要なポストを与えられている。オペラレパートリーも90演目を客演指揮するなど、関西のみならず活動を展開。また、奈良女子大学管弦楽団、岐阜県交響楽団、堺フィルハーモニー管弦楽団、京都シティフィルハーモニー管弦楽団などアマチュア・オーケストラの定期演奏会を客演指揮者するなど、アマチュアオーケストラの分野においても貴重な存在となっている。99年には東宝ミュージカル「ラ・ガージュ・オ・フォール」を大阪と名古屋でロングラン公演を指揮するなど幅広いジャンルで、今後ますます活躍が期待されている。指揮をウィーン国立音楽大学の湯浅勇治氏をはじめ、松尾葉子、広上淳一、辻井清幸の各氏に師事。

A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラは1999年10月、古都奈良に誕生した新しいアマチュア吹奏楽団です。「A-Winds (エー・ウィンズ)」の「A」は「アマチュア (Amateur)」の「A」であり、アマチュアならではの音楽づくりを追求することを標榜しています。演奏者一人ひとりの音楽作りを演奏に反映できる、管打楽器アンサンブルの延長上としての最小人数の吹奏楽=ウィンドアンサンブルを指向し、また、吹奏楽の特性を最大限に発揮できる吹奏楽オリジナル曲を中心に取り上げていくことを活動方針としています。



**Regards & Program Note**

**ご挨拶および曲目ご紹介**

演奏会実行委員長：河津 雅之

本日はご多忙の中、「A-Winds6 2001年夏の演奏会」にお越しいただき、誠にありがとうございます。そして「やまと郡山城ホール」のオープンを心よりお祝い申し上げます。まだ木の香りの残る新しいホールで演奏会を開催させていただくことを、大変光栄に感じています。

まずはこの素晴らしいホールのこれからの発展を願い、フィリップ・スパーク作曲の『ハノーヴァーの祭典』をお届けいたします。この作品は1999年、アメリカのニュージャージー州で活動する市民バンド、ハノーヴァー・ウィンド・シンフォニーの創立15周年を記念して書かれました。ニュージャージー州はハドソン川を挟んでニューヨークと接する住宅地域であり、またさまざまな分野の工場が立ち並び一方で、森や湖、美しい海岸平野が続く自然豊かな地域でもあります。

第1部2曲目には、最近数多くのバンドによって演奏されている曲目の中から、ベルト・アッペルモント作曲の『ノアの箱舟』をお届けいたします。この作品はタイトルの通り、旧約聖書に出てくる有名な『ノアの方舟』のストーリーを題材としていて、連続して演奏される4つの部分からなります。

「地上が人であふれ、人々はみな悪いことばかり考えていたことに神様は嘆き、そして地上の生物を全て殺すことを決心した。しかしノアとその家族は善良だったので生き残らせることにした。神様はノアに大きな方舟を作らせ（第1楽章）、地上の全ての生物を一組ずつその方舟に乗せた（第2楽章）。そして大雨を降らせ洪水を起こし、地上を洗い流した（第3楽章）。雨がやみしばらくたったのち、ノアは再び大地に降り立ち、新しい生活を始めた（第4楽章）。」

さて第2部では、自然の風景を描いた作品を2曲ご用意いたしました。現在私は神戸市の在住で、A-Windsの練習には車で2時間かけて通っています。その途中、大阪湾岸～高層ビル街～生駒山系と、さまざまな風景を見ることができます。またその風景は、季節、時間、天候によって見る者

に全く違う印象を与えてくれます。このように、生きている風景を音楽で表現したら一体どのようなものになるのか興味を抱き、演奏会後半のテーマといたしました。

まず1曲目は、ホマー・ラ・ガッシー作曲の『海の肖像』です。「海」という言葉を聞いて、どのような風景を思い浮かべますか？。きっと一人ひとり全く違うイメージになると思います。「音による絵画」と副題が付けられたこの作品は、海のイメージを1つのものに固定することなく、水平線の彼方に無限に広がる海のように、私達それぞれの心の中で、それぞれの「海の肖像」を描いていきます。

そして本日最後にお届けいたしますのは、フランコ・チェザリーニ作曲の『アルプスの詩』です。ヨーロッパを東西に横断するアルプス山脈は、ユングフラウやマッターホルンなど4000メートル級の山々が連なり、「ヨーロッパの屋根」といわれています。そしてアルプスを源とする幾つもの川は、ヨーロッパ各国の境を形成しながら流れていきます。そのためアルプスは、地理的にも歴史的にもヨーロッパの重要拠点といえます。

この作品は1999年、ドイツの作曲家リヒャルト・シュトラウスの50回忌にあたって彼の名声に敬意を表し、代表作『アルプス交響曲』を意識して書かれた壮大な交響詩で、連続して演奏される7つの部分からなります。

フランコ・チェザリーニは雄大なこの山脈に見下ろされるスイスのペリントナーの出身で、それ故に彼の人生にはアルプスの心と精神が刻まれているといえます。山脈の精神とは、山を題材とした作品を数多く書いているアメリカの作曲家アラン・ホヴァネスによって、「肉体と精神とが混ざり合った場所である」と述べられています。この言葉は曲を作る上において常に関わってくる、「現実と物体・非現実と精神の混在」を言い表しています。そして7つの楽章タイトルのうちのいくつかは、ドイツの小説家トーマス・マン著のスイスのサナトリウムを舞台とした小説『マジック・マウンテン (魔の山)』から引用しています。この小説では、「疾病・恋愛・死」の3つのテーマが人生の謎を解く鍵になっています。このようにチェザリーニは、アルプス山脈の情景を音楽で描写しながら、彼なりの人生論を展開しています。

まだ梅雨の鬱陶しさの残る初夏の日曜日、私達の演奏で少しでも海へ山への行楽気分を味わっていただければ幸いです。

**Regards & Program Note**



**Regards & Profile**

